

## 蠟梅 Now

御嶽山が9月27日 11時52分、7年ぶりに噴火した。死者56名、行方不明者7名と、戦後最悪の被害になった。自衛隊も出動、千人超で捜索・救出が行われたが、10月に入ってから2週続けての台風襲来もあり捜索は難航、16日には山頂付近の積雪で二次災害の危険が強まったとして、止む無く今年の捜索は打ち切られた。

御嶽山は3000m級ながら登山の難易度は比較的低いとされる。当日は土曜日、朝から好天に恵まれる絶好の条件で、登山人気もあって、遠方からも多くの登山者が訪れていた。発生時刻には、被災者の多くが絶景を眺めながら昼食を取ろうと山頂付近に集っていた。

9月10日に52回、翌11日には85回の火山性地震が観測されており、12日には気象庁は火山灰等の噴出の可能性を各自治体に通知した。しかし、その後地震の回数が減ったことから、警戒レベルは平常時と同じ「1」のままにし、自治体も注視するに留め、登山者への警戒呼び掛けなどはなかった。

登山届提出箱への投函や警察機関への提出が任意で、かつ記入率がそれほど高くなく、事前に記入し登山した人の実数は半数以下であったことも混乱の一因とされている。

いくつもの不幸が重なった結果とはいえ、活火山へ登ることに対する自己責任の重要性を改めて知らしめられたといえなくもない。

現在、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び活発な噴気活動のある火山を活火山とする。活火山の数は全国で110とされ、近年は休火山や死火山という分類はなされていない。

## フェニックスの如く、がんばろう 日本！

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、秋の到来とともに、年末～年初の開花に備えて、冬支度に入る。

実生に成功した蠟梅2世は順調に成長しており、誕生した西神から筆者宅のバルコニーにこの夏引っ越してきた一株は今、葉が枯れ始め落葉へと向かう。

葉は低温、特に凍結に弱く、また気孔があるため乾燥にも弱い。落葉は、低温や乾燥という厳しい環境条件に耐えるために、それに弱い葉を落として休眠に入る適応である。

まずは新天地での越冬、越冬を恙無くこなすことが最大の課題である。



### 《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸  
事務局長 大森 信

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 2-2-4

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ffk.or.jp

URL : <http://www.npo-ffk.or.jp>